

令和4年度 中河内精神医療懇話会

日 時：令和5年1月11日(水)14時～16時

開催場所：八尾市役所 第二委員会室（WEB会議）

出席委員：出席委員：13名

木下委員、尾崎委員、藤本委員、粕谷委員、岸本委員、山本委員、
鄭委員、鷹野委員、辻本土郎委員、當座委員、田中委員、
松本委員、高山委員

議 題

- (1) 中河内二次医療圏における精神医療について
- (2) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム実現に向けた医療の課題検討（依存症）

■議事1：中河内二次医療圏における精神医療について

資料に基づき、事務局から説明

【資料1】中河内二次医療圏における精神医療の現状

（質問）

- ・7割は圏域内に入院しているが、泉州圏域に14%入院している等、他圏域に入院している患者も多数おられる。住み慣れた地域で医療サービスを受けることが一番良いかと思うが、そのためにはどうすればよいか。

（意見）

- ・救急で入院する場合は、ほとんど遠隔地になる。退院後の治療に中河内圏域の医療機関を選んでもらうしかないが、患者や家族の都合もあるので難しい部分もある。

■議事2：精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム実現に向けた

医療の課題検討（依存症）

資料に基づき、事務局から説明

【資料2】中河内二次医療圏における精神障がいにも対応した

地域包括ケアシステム実現に向けた医療の課題検討（依存症）

【参考資料5】大阪府の依存症対策について

（主な意見）

<依存症全般について>

- ・アルコール、ギャンブル、薬物依存症の診療可能な医療機関が少ないため、一部の医療機関に患者が集中している。

- ・診療所ではケースワーカーやソーシャルワーカー等がいないと依存症の治療が難しい。
- ・依存症治療につながっている人が少なく、治療ギャップが大きい。精神科ではなく一般科を受診する人の中にも依存症が疑われる人は多くいるため、一般科との連携を図り、治療ギャップを少なくしていく必要がある。
- ・薬物、ギャンブル依存症に関してはアルコール依存症に比べ、ごくわずかしか医療にかかっていない。
- ・医療関係者の中にも依存症に対する陰性感情があり、治療に取り組んでいない状況がある。
- ・依存症患者について、救急医療の現場では身体合併は良くなるが再発を繰り返す人が多く対応に悩んでいる。退院後は精神科医師につながり再発する人は一定数存在する。
- ・内科的問題も抱える依存症患者について、身体的な治療が完了すれば終わりとする人も多く、依存症問題の解決が進まない。
- ・依存症に対する教育を受けていないことも治療を阻害する要因。一般の方、医療関係者ともに依存症に関する周知が必要。
- ・依存症に対応できる人材育成について、アルコール健康障害対策基本法の中でも人材育成を重要視しており、研修会でロールプレイや事例検討を行いスキルアップしていく必要がある。
- ・精神科医師でも依存症専門ではないので診察できない場合があるが、依存症はコモディージー（よくある病気）であり、だれでも診察できるようなシステムを構築しなければならない。
- ・自己の口腔内の管理は基本的な生活習慣を確立する上で重要と考えている。入院患者の口腔内のケアは、各歯科医師会にご相談いただければできるだけのご協力はする。
- ・保健所では依存症患者本人や家族からの相談を受け、嘱託医相談や依存症専門医療機関との連携だけでなく、広報、講演会、イベントでの啓発、AUDITの実施、アルコール関連会議等を行っている。
- ・市としては、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場で、保健医療福祉関係者による協議を行っているが、依存症については未だ具体的な検討はない。
- ・行政で把握している精神疾患患者はごく一部であると考えており、困難な課題を抱えている方に行政の持つ様々な制度を総合的につなげていくという試みがある。また4月からは国における重層支援体制を整備していく。

<薬物依存症について>

- ・薬物依存症はさらに法律の問題があるため難しく、アルコール依存症より精神症状が強く出るため後方病院は必須。
- ・薬物依存症の中で覚醒剤依存症の次に多いのが処方薬又は市販薬依存症。10代の市販薬

の乱用が増えている。

- ・市販薬のオーバードーズは、複数の医療機関を受診し、お薬手帳や調剤薬局を分けて同じ薬を処方されることもあり、薬局で指導することが難しい。
- ・学校薬剤師として中学校で薬物乱用防止教室を開いているが、10代の薬物依存を防げていない現実がある。保健所等と協力して教育をすすめていきたい。
- ・保健所内では、薬物依存に関しては「ダメ。ゼッタイ」という薬物に対して全否定するかのような教育をしつつ、一方で困難な課題を抱えた患者の対応をしており、行政機関の中でも矛盾して対策を進めざるを得ない状況がある。

<アルコール依存症について>

- ・アルコール依存症は、身体的な影響が出た際に救急病院を探すのに苦慮した。
- ・断酒会を知らない地域包括支援センター職員が多く、依存症やAAを含めて周知が必要。
- ・地域包括支援センターを中心に開催されている検討会の中で、アルコール依存症の事例検討をしたい。
- ・アルコールに関しては、特定健診時に問題飲酒者を把握し、特定保健指導を実施する方針が示されているが、他のタバコ対策等と比べるとまだまだ進んでいない。

<その他依存症について>

- ・ギャンブル依存症は、成育歴や家族からの話、借金等の聴取に時間がかかるが、身体的な影響は少なく処方もないことがあり、診療報酬は少なく医療機関の経営を圧迫する。
- ・オンラインでスマートフォンを使って公営ギャンブルができるため、短期間で依存症になり借金をする患者が増加している。どのように予防できるか皆で考える必要あり。
- ・ゲーム、インターネット依存症に関しては、ベースに発達障害がある人が多く依存症以外の対応が必要な場合が多い。